

年月	子どもの動き	親の動き
1991年12月	ビデオセンターに出向く。その後、入信。	
1992年11月	入信したことが妹にバレる。	妹は両親、両親は親戚に伝え、全員でやめるように説得する。
同月	アベルと打ち合わせ、偽装退会することに。	家族・親戚は安堵する
1994年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・統一教会員であることを告白。 ・親戚が所有する山中湖畔のマンションに監禁される。 ・2週間後に脱出し、新宿教会に逃げ戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両親は騙されていたことに激しいショックを受ける。 ・親戚の1人が監禁下での説得を提案する。(牧師は介在せず) ・茫然自失。
	新宿教会の周辺のホームを転々とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿界隈を探し回る。 ・「被害者父母の会」の集会を通して、戸塚教会(黒鳥牧師)の勉強会に参加する。週に2回。 ・勉強会で「脱会させるには保護説得しかない」と教わる。
1995年8月	合同結婚式に参加。韓日マッチングが決まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・合同結婚式、韓日マッチングのを知り、保護説得を決意する。 ・黒鳥了承し、保護説得経験者の父親に相談するようこと指示。 ・その父親を中心に、計画を練る。
1995年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・高田馬場のレストランで妹・弟と会う。 ・レストランを出たところ(早稲田通り)で、路上拉致。家族・親戚9人、勉強会仲間5人。 ・パトカーが来るも、「親子の話し合い」と聞いて、咎めず。 ・黒鳥が斡旋した横浜のアパートに監禁。 	
～1996年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・原理講論の説明を3カ月かけて3回を行う。 ・妹が黒鳥への報告役となり、毎日、黒鳥に報告し、指示を仰ぐ。 ・3カ月目に黒鳥が「津村カウンセラー」の名前で登場。 ・黒鳥はサジを投げ、大田八幡教会の清水牧師を紹介する。脱会後の安全な場所の確保を約束させ、了承する。 	
～1996年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・脱会の意向を示したあと、両親と妹に戻ってもらうことを要求する。 ・横浜から群馬県伊勢崎市のマンションに移動。 ・清水と元信者が毎晩、説得に来る。 ・脱会の意向を示したあと、別のマンションに移動し、同じような立場の元信者3人と同居。そのあと、さらに別のマンションで一人暮らし。 ・ようやく解放されたような気分になったと同時に、言いようのない怒りの感情がわきだし、アルコール、アトピー。 	・脱会の意向を示したことにとっても安堵し、実家に戻り、平穏な生活に。
～1999年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚教会近くのアパートで一人暮らしをしながら、戸塚教会に。 ・アトピー、アルコール依存、過覚醒、フラッシュバックによる抑鬱、睡眠障害。 ・黒鳥に、保護説得をやめるように訴えるが、のれんに腕押し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今度は保護説得成功者として戸塚教会の勉強会に通う。週に2回。 ・アトピーがひどいときには、アパートに泊まり込みも。 ・お礼奉公として、保護説得を手伝う。 ・リハビリがうまくいけば、子どもの精神状態は良くなるものと信じて

	<ul style="list-style-type: none"> ・献金等返還請求。婚約破棄の手続き。 ・家族団欒の場面になると、フラッシュバック(横浜のアパートでの家族ごっこの場面)が起き、精神的不調に。 	いた、信じさせられていた。
1999年2月～	<ul style="list-style-type: none"> ・黒鳥牧師と清水牧師が今利理絵に訴えられる。それを契機に、戸塚教会の雰囲気は一変し、「黒鳥を守れ」一色に。 ・この年の秋頃、横浜地裁の法廷後の集会で、「訴えた人の気持ちも考えなければ」と発言するや、親子は孤立。 	
～2004年秋	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページづくりを開始する。 ・医師からPTSDと診断される。症状はアトピー以外は軽減されず。 ・同じような精神状態の元信者と一緒に、PTSDの自助グループを立ち上げる。 ・家族にも苦しさを伝えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が謝罪の手紙を送るようになる。
～2007年	<ul style="list-style-type: none"> ・月刊『現代』のルポのゲラを読み、フラッシュバックが生じる。怒りが爆発。父親を殴り続ける。 ・ルポを親戚全員に渡す。みんなが謝罪する。PTSDへの無理解がなくなる。 ・この頃から徐々にだが、症状が納まる。 ・家の新築を機に、一緒に暮らすようになる。 	
2008年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に派遣社員として復帰する。会社から正社員になって欲しいという要望があり、PTSDであることを伝えた上で、了承する。 ・両親に花束を。 	